

にしてやるのです。子どもを拘束することのないように。ということは、プレイペン（幼児用遊びわく）やクリップ（幼児用わくつきベッド）を使うなどということではなく、使ってもよいが、あまりに長い間は入れておかないようにということです。母親は少なくとも一日に一時間以上は十分に子どもに注意をむけてあげたらよいでしょう。

シカゴ大学の教育学部の教授であるブルーム (Benjamin S. Bloom) は、もし一言でいえるというなら、親は進んで集まって自分たちがそれぞれ子どもにとつた方法について話し合い、意見を交換すべきでしょう。幼児教育は家族を中心としたもので、研究所の中で行なわれるものではありません。多分、ひとりの親は他の親よりも、少しだけ多く知っているかもしれない。けれど親は専門家のように、たくさん知っている必要はないのです。ただ少し知っているということ、お兄さん程度でよいのです。親は意見を交換したり、本を読んだり、フィルムを見たり、簡単な研究をして、少しでも不安をとりのぞくのです。そうすれば、子どもから反対に教えられるということに気づくでしょう。

いろいろな専門家と話して、誰もがいうことは、どんな親でも幼児期の教育や思いやりや勇気にぶつかるといふことです。子どもを育てる中で最少限度の要求は、人間にとつて決してお金のかかることではないと、ハーバード大のホワイトはいふ。親は、非常に頭がよい必要もないし、よい仕事を持っている必要もない。お金持でなくても、必ずしも幸福な結婚をしてなくてもよい。そして、子どもの教育のためにまる一日中を使うこともないのだという。

(十文字学園女子短期大学)

## 幼児の教育 第七十一巻 第九号

九月号 定価一〇〇円

昭和四十七年八月二十五日印刷  
昭和四十七年九月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所フレーベル館にお願いたします